木造住宅等地域材利用拡大事業

木のギャラリー

（一社）東京都木材団体連合会

木を街に広げる

幕末の江戸の風景

はじめに

かつて、 日本は木と土と紙で作られた、 美しい街並みをもっていました。 今や街の中心部では、 木材に触れることが少なくなり、 街中で暮らしていると、 豊かな日本の森林資源の恩恵を感じることはほとんどありません。 また、 日本の人口と住宅着工戸数が減っていく現況を鑑みると、 木造住宅に着目するだけでは木材需要の活性化に繋がらないと考えられます。

都心部の現状

そこで、 こうした街の中心部で積極的に木を使う方法を提案します。 街の様々な場所に展開できる、『木質化』 のプロトタイプを開発することで、 住宅市場だけに捉われない、 新たな木材需要を生み出すとともに、 木とともにある暮らしを取り戻します。

日本の豊かな森林資源

いつしかコンクリートの団地に変わってしまった街並みを、 少しずつ『木質化』していくことで、日本の街を魅力的な『木の街』に変えていくことを目指します。

『木質化』のプロトタイプ

短期間で簡単に建てることができる『木のパビリオン』と、どこにでも置ける『木のパブリックファニチャー』という二つのプロトタイプを作ります。より多くの場所を『木質化』し、様々な場所に木の温もりを感じることのできる、『木の街』の実現を目指します。

プレハブ建築の木質化

『木のパビリオン』

短期間で組立が可能なユニット式の木造建築を提案します。組立と解体を考慮した移築も可能な構造とすることで、仮設住宅や長期イベント等での利用が期待されます。社会の変化が著しく、様々なニーズへの適応が必要な現代における、新たな木造建築の可能性を提示します。

公共施設の木質化

『木のパブリックファニチャー』

木に包まれた優しい場を生み出す、木の家具を提案します。木の柔らかい質感と温もりに包まれた少し大きな家具とすることで、公共施設や医療施設などに、より魅力的な場を生み出すことができます。豊かな木材資源を持つ日本ならではの公共空間の風景を作り出します。

木のパビリオン

内部空間を織り成す、無垢の登り梁

檜と杉の縁側空間

日本の美意識が現れた無垢材の空間

伝統的な和風建築ではなく、木材資源が豊富で豊かな

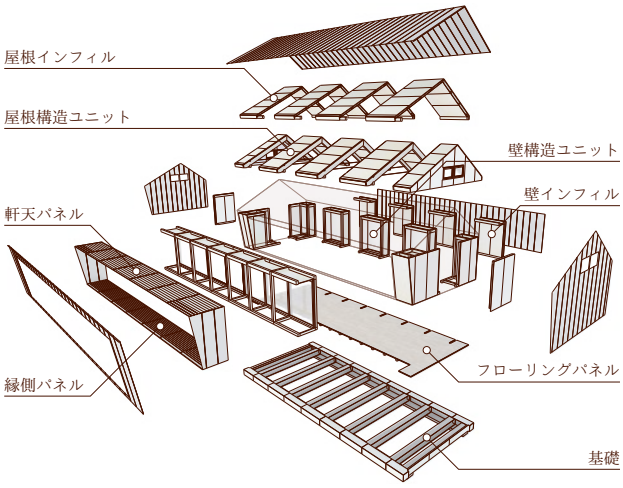
四季を持つ日本ならではの、ミニマムなデザイン。

不要な要素を省くことで、落ち着きのある空間を演出します。

木の厚みと存在感が感じられる、無垢材を用いたデザイン。

柱と登り梁を現すことで、木の表情、無垢さ、質感を

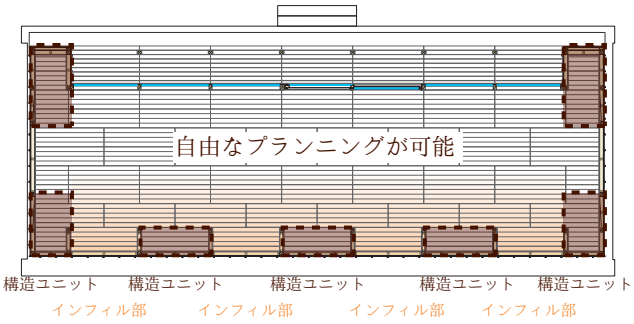
鑑賞できる空間を作り出します。



解体ダイアグラム

移築できる木造建築

様々な需要に短期間で対応できる、新たな木造建築の可能性を提示します。容易な組立と解体が可能になる、『ユニット・インフィル式』の構造にすることで、従来では困難であった、『移築できる木造建築』にします。

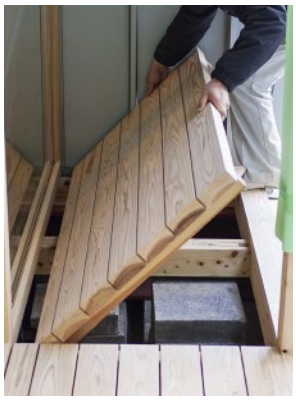


構造ユニットとインフィルを交互にした構造システム

ユニット・インフィル式構造 / 自由なプランニング

ユニット部とインフィル部を交互に配置した構造システムにすることで、様々な用途に対応することが可能になります。
インフィル部に扉、キッチン、エアコンなどを自由に設置することができるため、移築先の用途やリノベーションに応じた柔軟なプランニングを行えます。

金物工法　柱 - 梁接合部



縁側パネルの取り付け

ユニット化・パネル化

従来の仕口加工の接合ではなく、ドリフトピンを利用した金物により、各ユニットの接合部を容易に解体･組立を行うことが 可能になります。また、仕上材をパネル化することにより、解体と組立の手間を大幅に削減することできます。

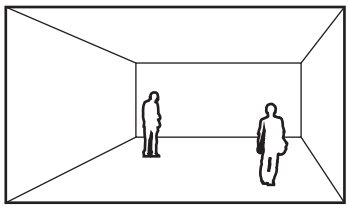
大開口と縁側空間

構造ユニットによって、大開口を実現しています。大開口に沿うように縁側空間を設けることで、外とのつながりを意識した空間を作り出しています。

木のパブリック ファニチャー

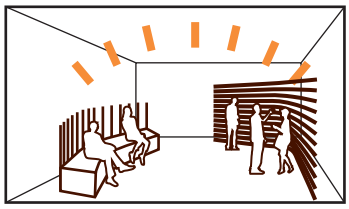
置くと木の優しい場が生まれる木の家具

公共空間に木の優しさで包まれた場を生み出す、少し大きな杉ルーバーの家具を作りました。開きつつも、包まれた形とすることで、木の質感、温もり、香りに包まれながらも、周囲と繋がっていく、『癒し』と『人の繋がり』を空間に与えることができます。既存の公共空間に、この家具が置かれることで、そこが木の場に変わります。この木の家具を様々な形で公共の場に少しずつ、展開していくことで、木とともにある暮らしを取り戻すことを目指します。



無機質な公共空間

▼



公共空間を木質化

木のパブリックファニチャー

間仕切＋テーブル

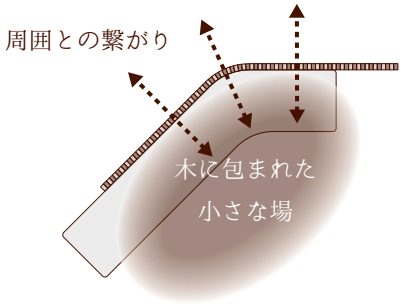
杉ルーバーで場を柔らかく包み込む間仕切。
置くだけで個室のような空間が生まれます。

ソファー＋ローテーブル

杉ルーバーが巻き付いたようなソファー。
置くだけで、リビングのような場を生み出します。

床付き家具

柔らかい質感をもつ杉の床付き家具。
床座の為の和室のような空間ができます。



杉ルーバーと家具

材を交互に並べた、木の長さを活かしたシンプルなルーバー。
木に質感に触れ、隙間から視線が抜けるルーバーに包まれた、
『癒し』と『人の繋がり』を空間に与える木の家具。

木について

木は国産材の無垢材を用い、日本の木材の鑑賞できる空間としています。
日本特有の杉と檜を主に使用し、床には柔らかい質感をもつ楢、天井と壁に
しなやかな表情をもつシナを使用しています。

杉

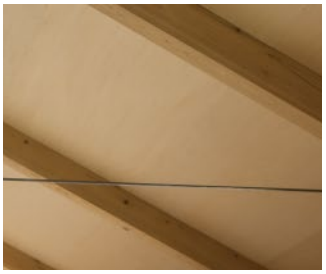
梁桁、登り梁、柱、
濡れ縁・軒天
杉ルーバー、中空パネル

檜

柱、マリオン、押縁
敷居、鴨居

楢

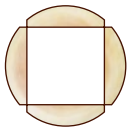
フローリング
衝突防止マーク



椴の木

天井、壁 [シナ合板]

丸太



製材時できる端材

端材で構成するパネル

杉中空パネル

柱などの角材の製材時に生じる端材を集成したパネル材。
割り箸などの用途しかない、端材を有効的に利用することで、
間伐材の価値を高め、日本の森林の維持と成長に貢献できます。

ご案内

展示期間

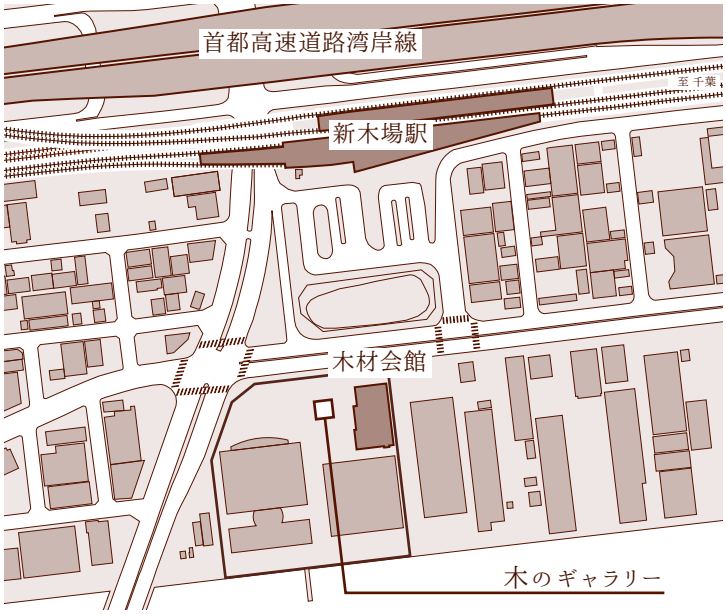
2016年6月末迄
10:00-16:00 [休日:土·日·祝]
入場料 無料
※展示期間·時間は変更される
可能性があります。

展示場の所在地

東京都江東区新木場1-18-7

交通のご案内

JR京葉線·武蔵野線、りんかい線、
東京メトロ 有楽町線
『新木場駅』より徒歩3分



一般社団法人 東京都木材団体連合会
〒136-0082 東京都江東区新木場1-18-8
TEL: 03-5569-2211

[画像] 幕末の江戸の風景
出典
[作家名] フェリーチェ・ベアト
[作品名] 愛宕山から見た江戸のパノラマ
[所蔵先] 東京都写真美術館
Image：東京都歴史文化財団イメージアーカイブ